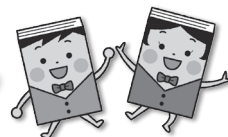


小学図書館ニュース



★定期刊行物は終わる期間を予定しない刊行物です。年度が変わりましても、購読中止のお申し出がない場合、引き続きご送付申し上げます。
★著作権法により、本紙の無断複写・転載は禁じられています。

平成30年9月8日発行 第1143号付録

©少年写真新聞社 2018

郷土の自然と歴史への理解が防災力を高める

東北大学災害科学国際研究所 教授 佐藤 健

脆弱性の改善による 災害リスクの低減

自然災害の規模や様相は、ローカルな地域ごとの自然環境と社会の脆弱性に大きく依存します。地形や標高、地盤条件といった自然環境は、地震の揺れや津波・洪水の浸水といった自然のハザードに直接影響を及ぼします。また、社会の脆弱性が高いほど被害を受けやすくなります。例えば、高齢者は地震の時の揺れによってけがをする確率が高いため、高齢化率の高い地域は社会の脆弱性が高いといえます。

私たち人間は、自然の振る舞いそのものをコントロールすることはできませんが、被害を小さくするためには脆弱性を改善することはできます。例えば、お年寄りが住む部屋の中の地震対策を行うことにより、けが人の発生を少なくすることができ、高いハザードにさらされている人々ほど、脆弱性を改善するための予防策がリスク低減に有効です。

自然に対する畏敬の念をいざくこと

自然は私たち人間に多くの恵みを日常的に与えて来ています。自然の恵みを生業とした暮らしがあり、

温泉や自然景観も楽しむこともできます。四季と自然の恵みに富む我が国は、同時に自然災害のリスクも抱えています。高度に発達した現代の我が国でさえ、自然は人間の力をはるかに超えたものであることを実感する機会が少なくありません。

古い時代は現代のような大がかりな治水工事は不可能です。古くから低平地に住居を構える場合は、人々は、まわりの土地よりもわずかでも標高の高い微高地といわれる土地を選択してきました。低い土地に住んでいる人は自分ごととしての災害への備えが存在していません。

しかし、そういったことが現代では薄れてきています。現代の人々は、自然がもたらす恵みと災いの両面を自分ごととして捉え直す必要があります。

地域ごとに災害履歴を学び直す

河川堤防や防潮堤といった防災施設が整備されると、ちょっとした雨や風などでは被害が発生することが少なくなりました。そのために、自分が住んでいる地域の持っている自然環境や地理的な条件について、主体的に考える機会が減ってしまっています。

その一方、防災施設は、どんな大きさのハザードに対しても被害の発生を防ぎきれないものではありません。おのずと限界があり、限界を超えると災害が発生します。

災害の備えを考える際、防災施設の整備が十分ではなかった時代にそれぞれの地域で受けた災害履歴が貴重なヒントを与えてくれます。その理由は、自然災害の様相は、地域が本来持っている自然環境や地理的な条件に正直に現れるからです。

そのことを鏡に映し出したものがハザードマップともいえます。それだけに、自然環境と調和しながら暮らしてきた先人の知恵や地域ごとの災害履歴を学ぶことが、大きな意味を持つこととなります。

地元学のすすめ

東日本大震災をはじめとする度重なる自然災害の経験と教訓から、自分が生まれ育った郷土や、生活している地域の自然と歴史を学ぶことが求められています。一般的な防災知識の獲得だけでなく、地域ごとの自然と歴史を深く理解すること、すなわち地域に根差した学び方である「地元学」に大きな期待が寄せられています。

掲示用写真ニュースの答え：1-あ、2-両方、3-い、4-あ、5-あ